

本校の SSH 事業の取組が 大学新聞社発行 全国版教育誌 『大学新聞240号』に掲載されました！

本校の SSH 事業や探究活動について、大学新聞社発刊の全国版教育誌『大学新聞240号』に掲載されました！

今年度に入って、『「探究」への導き 2026』、『月刊高校教育6月号』に続いての全国紙への掲載となりました！

『大学新聞』は、『「探究」への導き 2026』と同じ大学新聞社が発刊したものです。『「探究」への導き 2026』で取材した内容が、「大村高校が行っている探究に関する取組は、全国的に見てもすごいことをしている！！」と出版社の中でも話題になり、出版社の方から『大学新聞』でも掲載させてもらえないかと、依頼があって今回の掲載につながりました。

今後も「最先端の学びを日本の西端から創造」できるように、全職員、全生徒で SSH 事業を推進していきたいと思えます。

掲載された記事の内容は、次ページに載せております。



※大学新聞社の記事につきましては、無断で転載することを固く禁じます。

実践重視の探究活動

文理融合型の学び

長崎県立大村高等学校

長崎県立大村高等学校（長崎県大村市）は平成30年度、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH）」の指定校に採択され、令和5年度からは第Ⅱ期（令和9年度）に突入した。第Ⅱ期では、「高度な科学的思考力と豊かな発想力を

持ち、新たな解の創発に向けて行動する人間」を目指す人材像に掲げている。同校は、「文理探究科」「普通科」「家政科」の3学科を設置し、「まず、体験してみよう！」をモットーに、全学科一丸で探究活動に取り組む。文系・理系の区別にとらわれない学科の垣根を越えた実践形式の学びだ。

文部科学省が指定するSSH事業とは、先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的探究能力等を培い、これからの社会をリードする人材を育成する取り組みだ。

生徒に探究活動で必要な力を身につけさせるため、同校では多様な活動を試みる。入



グラフやデータを駆使し発表会に挑む生徒

学後すぐに行われる「大高探究ビルディング」では、新聞紙で何度か条件を変えてタワーを作り、最終的な高さを競う。共働作業を通して、探究活動の楽しさや課題解決のプロセス、チームワークの大切さを学ぶことが目的だ。

1年次の1学期には、地域の大学と連携し「情報分析力育成講座」を行い、本格的な探究活動の前に、データの集め方や読み方等を学ぶ。また、実際の記事や調査結果等に対して「本当にそうなのか」という批判的思考も醸成する。進級後の探究活動におけるポスター作成や発表、議論などに好影響があり、より良い探究活動につながることを期待しているという。

活動に対し「外部とつながりたい」という前向きな生徒の声を受け、「大村高校探究活動コンソーシアム」を構想中だ。地域のイベントで、探究活動の成果発表を行えるように行政と連携するほか、地域の銀行や連携協定を結ぶ大

専ら窓口の設置を要請するなど、生徒の「気軽に探究活動の質問ができる」環境づくりのため奔走する。探究SSH企画部主任の川久保晃一教諭は「やらされ感ではなくワクワク感を大事にしています。主体的な活動で得た学びは今後に活かすはず」と、期待を込めた。